未来に向かって　一人ひとりが輝く北っ子！

5/25(木)で 150 歳　北小学校の歴史を調べてみました

５月２５日（木）は北小創立１５０周年でした。今年度は校舎改修があるため、来年度、新しい校舎の完成披露を兼ねて、記念事業をおこないたいと考えています。
校長室に何か歴史がわかるものがないかと探しましたところ、『幸世村誌』がありました。

０歳	明治６年	（1873）	５月２５日　相救舎　創立　（場所：南田井村）
３歳	明治９年	（1876）	男子 118 人、女子 114 人　就学率　76%
２７歳	明治 33 年	（1900）	幸世小学校　（場所：絹山柳町） 義務教育は、１～４年まで 男子 240 人、女子 179 人　就学率 56%
35 歳	明治 41 年	（1908）	義務教育が６年間になる 男子 367 人、女子 336 人　就学率　９９%
68 歳	昭和 16 年	（1941）	幸世国民学校となる　全校生　984 人
74 歳	昭和２２年	（1947）	幸世小学校となる　全校生　965 人 義務教育が９年間になる
82 歳	昭和 30 年	（1955）	氷上町立北小学校となる　全校生　872 人
131 歳	平成１６年	（2004）	丹波市立北小学校となる　全校生　250 人

今年３月に１０６歳で亡くなった祖母は、大正５年（1926）生まれでした。
６ 人兄弟の上から２番目、家庭は経済的に厳しかったそうで、尋常小学校しか卒業していません。生前、「次の学校へ行きたかったけど、親にあかんと言われた。もっと勉強したかったわ。」とよく言っていました。祖母は、小学校時代も、よその家庭に預けられ、そこで子守をする代わりに食べさせてもらい、学校にも通わせてもらったそうです。ご飯と漬物だけの弁当のこと、学校から帰るとすぐ赤ちゃんを背負わされて、家事の手伝いをしなければならなかったことを話してくれたこともありました。まるで「おしん」の世界です。祖母は 100 歳に近くなるまで老眼鏡をかけ新聞を読んでいました。
明治３３年の就学率は５６%、その中でもさらに男子に比べて少ない女子の数字を見て、祖母との会話を思い出しました。
今は、義務教育の９年間、もっと言えば、次の高校まで当たり前のように学習の場が与えられている日本の子ども達。学びたくても学べない子どもは今も世界中にあふれています。子ども達の日々の学びを大切にしなければと改めて感じています。
児童会が、ユニセフの募金活動を始めました。北っ子達も活動を通して、自分達がなぜ毎日学校へ来て学んでいるのか、世界の学校へ行けない子ども達に何ができるのか考えてほしいと思っています。

【3年　理科】
種が芽吹いたところを観察しています

【1･2年　学校探検】
2年生が1年生に学校を案内しています